Cambridgeを訪れて

奥宮 雅代
医学部 医学科4年

私は、平成15年7月8日から8月22日までの約7週間、視覚病態学分野塩田教授のご好意により、ケンブリッジ大学獣医学部にて勉強させていただきました。留学前の約1ヶ月間、ウイルス学教室の足立教授と小山助教授のもと、実験の手法を教えていただいた後、ケンブリッジ大学では、Dr.Hugh Field 先生ほかたくさんの先生にお世話になりながら、基礎的な研究に携わることができました。最初のうちは、なかなか大変なこともありました。ケンブリッジ到着初日は次の日から必要になる自転車を手に入れるため、地図を片手にうろうろ。これから友達できるのかな、実験うまくいくかな、と本当に全てが不安でいっぱいでした。

研究室では先生や友達の英語がなかなか聞き取れず、毎日はがゆくて焦ったりもしました。でも、先生方は私のペースに合わせて実験の計画を立ててくださり、課題も無理なくできるように工夫してくださいました。周りには、私と同じ年代の大学院生が何人もいて、お茶と昼食の時間にはさりげなく声をかけてくれました。みんなと一緒にちょっとした冗談に笑ったり、ゆっくりお茶をのんでいると、張り詰めていた気持ちが少しずつ和らいできて、頑張ろう、自分にできることを精一杯やろうと気合を入れ直すことができました。

私がケンブリッジで滞在していたのは、築500年以上のクイーンズ・カレッジでした。建物だけでなく家具も全て、とても大切に使い込まれていました。生活に少しずつ慣れてくると、ケンブリッジの町をゆっくり味わう余裕が出てきました。ケンブリッジには32のカレッジが集まっていて、特に町の中心には歴史の古いカレッジが多く、毎朝学校に通う途中でも、すばらしい景観を楽しむことができました。

3週間目に入ったころ、急に自分から英語を話すことが怖くなってしまいました。そんな時、友達が「勇気をだすと、いいことあるよ」という言葉を教えてくれました。「大事なのは文法じゃなくメッセージだよ」と言ってくれた人もいました。周りの人の言葉に少しずつ勇気をもらって、だんだん自分からメッセージを発することができるようになりました。先生や友達に支えられ、実験も無事終えることができました。今は、たくさんの方々への感謝の気持でいっぱいです。